

## 「社会と情報」と「進路指導」との連携

愛媛県立新居浜西高等学校 高須賀 幸男

### 1 はじめに

「自ら人格を磨き、徳・知・体の調和のとれた、個性豊かで国際感覚にあふれ、我が国の発展に貢献することのできる、心身ともに健全な人間を育成する」という教育目標と、「自律生活（徳）」・「自主学习（知）」・「自己鍛錬（体）」という校訓のもと、教育活動にあたっている。

本校は普通科のみ、各学年7クラス、計21クラス編成で、生徒数は801名（4月8日現在）である。3年生のほとんどが進学を希望し、その大半が4年制大学に進学している。本校には東予東部地域の広い範囲から通学してくる生徒がおり、その期待に応えるべく「魅力ある進学校」として充実した学校生活を送ることができるよう、教職員が一丸となりサポートに努めている。

そこで、本校のキャリア教育推進の一環として、情報の授業に関しても、教科としての目標をきちんと踏まえながら、進路指導との連携に積極的に取り組んでいる。

### 2 主題設定の理由

本校では、教育課程の見直しにより、平成25年度から文科類型・理科類型とも2年生で「社会と情報」を履修することになった。それ以前は1年生で「情報A」を履修しており、その際にも進路指導との連携が行われていた。しかし、そのままの内容で2年生を対象として実施した場合、あまり効果的ではないと思われるものもあった。1年生と2年生では進路に対する意識に差があるため、それを踏まえ、2年生にとって効果的な進路指導との連携を目指し、この主題を設定した。

### 3 実践内容

現在行っている進路指導との連携は2つである。

#### (1) 「進路希望に応じた上級学校等の情報収集」と「志望理由書作成」との連携

本校の進路に関する取組の一つに「志望理由書作成」がある。これは、2年生全員に2学期末時点での第一希望の大学等を決めさせ、その志望理由書を冬休みの課題として作成させるというものである。

教科書第5章問題解決（「高校社会と情報」（実教出版））第2節の内容に即して、授業で大学等の情報を収集させ、志望理由書作成時の参考にさせている。

#### ア 連携時期等

2年生の11月下旬に、総合的な学習の時間「仰」（以下「仰」）を利用して、進路課が外部講師を招き「志望理由書書き方講座」を実施している。体育館で学年全体に対し、この時期に志望理由書を書くことの意義と、志望理由書の基本的な書き方を説明している。この講座の前後（2学期末考査をはさむ）3～4時間程度、情報の授業で進路関係のテーマを設定した情報収集の実習を取り入れている。



ため、情報の授業の実習として実施しているということを説明した。

1年次の文理選択の際にある程度大学等を調べている生徒は、実習を始めてすぐに第一志望の大学のWebページを閲覧してメモを取っていた。しかし、志望校どころか志望学部・学科さえまだ考えていない生徒もあり、そのような生徒は最初は何から調べたらよいか戸惑っているようであった。そこで「benesseマナビジョン」などで調べることもできるとアドバイスをすると、熱心に実習に取り組むようになった。

収集した情報はOA教室外にデータとして持ち出すことができないため、メモ用のプリントを一人に複数枚配布し、見えそうな内容をメモさせた。

このメモだけでなく、自分で取り寄せた大学のパンフレットなども参考にして、冬休み中に志望理由書を書くよう指導した。

#### ウ 評価等

実習の趣旨をきちんと説明し、理解させたことで、どの生徒も真面目かつ真剣な態度で実習に臨んでいた。

メモ用紙を提出させることはせず、実習の評価は、関心・意欲・態度が中心となっている。志望理由書作成を指導するクラス担任とは、個々の生徒の授業への取組などについて情報交換をしている。

#### (2) 「プレゼンテーション能力の育成」と「AO・推薦入試対策」との連携

教科書第5章第3～9節に即して、情報分析、プレゼンテーション能力の育成のため、パワーポイントを利用した実習をしている。プレゼンテーションのテーマを「大学等で学びたいこと・研究したいこと」「社会問題をどのように解決していくべきか」に限定し、作成、発表をさせている。これがAO入試や推薦入試の対策にもなるということを生徒に説明し、真剣に取り組むよう指導している。

#### ア 連携内容

(1)の実習において「どのような研究をしているのか」「卒業生がどのような仕事に就いているか」「どのような資格が取れるか」を調べていることを活用し、2学期期末考査後～1月中旬でパワーポイントを使ったプレゼンテーションを作成させる。完成後の1月中旬～下旬で、一人ずつプレゼンテーションをさせ相互評価させている。

大学・学部・学科等の調べ学習（HP等） ( ) HR ( ) 番 氏名 ( )
志望理由書作成のための情報収集
ア なぜその学部・学科で学びたいのか（そのきっかけも考えておくとよい）
<div style="border: 1px solid black; height: 60px;"></div>
イ なぜその学校でなければならないのか（他の学校とは違う特徴）
<div style="border: 1px solid black; height: 60px;"></div>
ウ 学校では何を学びたいのか（どのような研究をしているのか）
<div style="border: 1px solid black; height: 60px;"></div>
エ 将来はどのような仕事をしたいのか (卒業生がどのような仕事に就いているか どのような資格が取れるか)
<div style="border: 1px solid black; height: 60px;"></div>
ウ、エはプレゼンテーションでも必要

## イ パワーポイント作成（予定含む）

パワーポイントによる効果的なプレゼンテーションを行うためには、パワーポイントがある程度使えることが大切である。「文章を入力できること」「数値データを分かりやすく処理すること」「画像を活用すること」などが必要となるので、実習を通して計画的にこれらの技術を身に付けることができるようにしている。1学期はコンピュータの起動、ネットワークへのログイン方法、データの保存方法など説明後、まずワードの実習を行った。これにより、ある程度時間をかければ文章の入力や罫線を含む文書の作成ができるようになった。続けてエクセルによる表の作成、関数の入力、グラフの作成を実習した。

2学期前半の実習ではパワーポイントの使い方と画像の作成方法を身に付けさせるため、4コマ漫画を作成させた。画像作成にはフォトショップを使用し、パワーポイントのアニメーション機能を必ず使うことを指示した。できた作品は一人ずつ発表し、相互評価を行った。

これらの実習で身に付けた技術を活用し、3学期にプレゼンテーションをさせている。このプレゼンテーションは「志望理由書作成」のために調べた情報を基に、「AO・推薦入試でプレゼンテーションが課せられている場合」を想定して作成・発表することを目的としている。まず、見本として過去に作られたパワーポイント作品を紹介し、次の注意をする。

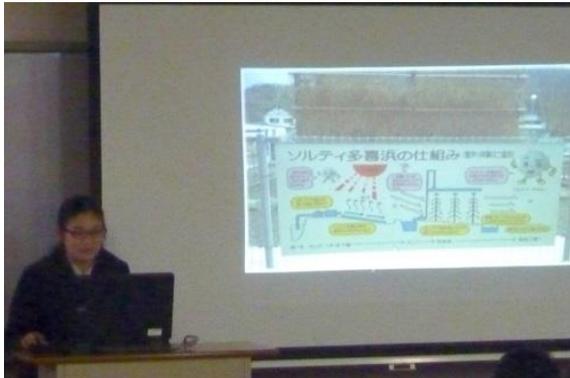
- (ア) テーマは「どのような研究をしたいか」「どのような知識や技術を身に付けたいか」などとする。大学名を明記するかどうかは本人の判断にまかせる。
- (イ) (ア)のテーマを設定した理由を説明するため、書籍やパンフレット、インターネットによる情報検索などで情報を収集させる。集めた客観的なデータに基づいて、テーマとしている事柄についての現状を把握し、そこから見つかる課題等を明確にすることで、テーマ設定の理由を説明する。その際、数値データをエクセルでグラフ化して使用する。
- (ウ) (イ)の課題等に対する対策・改善案を示し、その実現のために大学でどのようなことを「学びたい」「研究したい」「身に付けたい」のか説明する。
- (エ) 将来は、どのような職業に就き、どのように社会に貢献したいかを説明する。
- (オ) 短大、専門学校進学希望者についても、大学と同様とする。
- (カ) 就職希望者については、希望する職業に関連すると考えられる大学・学部・学科を選び、進学することを想定してパワーポイントを作成する。

## ウ パワーポイントによるプレゼンテーション

今年度の12月現在ではパワーポイントの作成中であり、3学期にクラス内での発表会を実施する予定である。ここでは、昨年度の事例について報告する。

くじ引きで発表順を決め、1時間で10～15名程度が発表した。分かりやすく説明をするための工夫を個々に考えさせ、必要なものがあれば自分で準備しておくように指導した。発表の2割程度は、画面を見ながら、そこに書かれている文章を読むだけで終わってしまい、物足りないものになってしまった。しかし、それ以外の生徒は、画面に示されたキーワードについて分かりやすく説明しようという気持ちが表れていた。身振り手振りを取り入れ、声の強弱に気を配ることができる生徒もい

た。中には、地域で作られた塩を使ったお菓子の実物（事前に申し出があったので許可した）を持参したり、「〇〇の常識を破る」と言いながら用意していた紙を破るパフォーマンスをしたりする者もあり、様々な工夫が見られた。



自分で撮影した写真



地域で作られた塩を使ったお菓子



グラフ



何を学びたいのか明確に

## エ 評価

発表を聴く態度について指導し、エクセルで作成した相互評価表のファイルに各項目5段階で評価をさせ、入力させた。個々の生徒の様子を相互評価することで、どのようなプレゼンテーションが効果的なのかを気付かせることができた。また、よかった点や改善点などをコメント欄に記入させ、評価と合わせて提出させた。提出された各ファイルからコメントだけを収集し、まとめて個人票を作成し、それぞれの生徒に返却することで、将来プレゼンテーションをする機会があれば参考にし

### 評価基準

評価	5	4	3	2	1
内容	伝えたいことが良く分かり、感心した。	伝えたいことがはっきりし、印象に残った。	伝えたい内容が理解できた。	伝えたいことが少しは分かった。	何を伝えたいか良く分からなかった。
態度	聞き手やまわりの状況にも配慮がみられ、素晴らしい態度であった。	分かりやすく伝えようとする努力や工夫があり、効果的だった。	発表者として適切な態度であった。	伝えようとはしていたが、やや分かりにくかった。	聞き取りにくく、伝えようという意欲が感じられなかった。
スライド	大変見やすく、随所に効果的な工夫があり素晴らしい出来であった。	伝えるための工夫があり、好感が持てた。	伝えたい内容が適切にスライドに表現されていた。	頑張っていたが、やや伝わりにくいスライドであった。	工夫等があまりみられなかった。

### 評価の観点

内容	<input type="checkbox"/> テーマが明確であったか
	<input type="checkbox"/> 発表の筋道が通っていたか
	<input type="checkbox"/> 客観的資料に基づいていたか
態度	<input type="checkbox"/> 発表者の意見が示されたか
	<input type="checkbox"/> 話す速さや声の大きさは適切であったか
	<input type="checkbox"/> 重要な部分を強調できていたか
	<input type="checkbox"/> 身ぶり手ぶりなど体を使った表現を取り入れていたか
スライド	<input type="checkbox"/> 正しい姿勢(うつむいていないなど)であったか
	<input type="checkbox"/> レイアウトが適切であったか
	<input type="checkbox"/> 文字の大きさや色などが適切であったか
	<input type="checkbox"/> 図やグラフが効果的に使用できていたか
	<input type="checkbox"/> アニメーションが効果的に使われていたか

てもらえるようにした。他人に自分が伝えたいことを分かりやすく説明することの難しさなどを理解させることができた。

〇〇〇〇さんへのコメント	
地域のことをよく調べていてすごいと思った	
塩田の歴史を後世に伝えたい気持ちが伝わった	
たくさん調べていてすごいと思った。声が少し小さい	
事前にとっても調べられていてクオリティがとて高かった	
塩田の教科書見てみたいです。	
グラフや図をうまく使っていた。	
実物を見せてもらえたり、自分の足で取材をしたりと真剣に考えている様子がうかがえた。	
声が届きにくかった気がしました。だけど自分で撮ってきた写真もあってわかりやすかったです	
自分の地元の問題点を解決する良いテーマだった。	
塩田に対する熱い思いが伝わった。	
大変良かった。人を惹きつけていた。声が聞き取りづらかったのが惜しかった。	
実際に取材や見本を見ることができて工夫してあるなと思いました。	
将来のビジョンが明確でたいへんよい	
実物を持ってきていたり写真を多用していたり分かりやすく工夫してすごかったです。	
問題を詳しく調べていて、実際にお菓子を持ってきていてすごかった。	
準備がすごかった。わかりやすい発表だった。	

#### 4 結果と考察

平成23年度までは「情報A」を1年生で履修していたため、2年生で取り組んでいる志望理由書作成との連携はできていなかった。2年生が学校でコンピュータを利用し情報を収集するためには、ホームルーム活動を時間割変更してOA教室が使える時間を調整する必要があった。さらに各クラスがOA教室を使用できる時間も1時間程度で、十分な情報を収集できない生徒もいたようである。平成25年度からは2年生で情報を履修しているので、志望理由書に必要なだと考えられる情報を「情報検索の実習」で収集させることができ、どの生徒もある程度の情報を取得することが可能となった。

プレゼンテーション実習では、1年生で情報を履修していたときにも「進路指導」と連携していた。班別で大学・学部・学科の情報を収集してパワーポイントにまとめ、クラス内で発表会を行って優秀な班を決めていた。さらに各クラスの代表班が2月の「仰」の時間に学年発表会を実施し、最優秀を決定していた。文理選択や将来の進路先を考える上では大変良い取組であったと考えている。しかし、1年生段階では「大学等の紹介・説明」でよくても、2年生の3学期は第一志望の大学等をしっかりと決めて本気で学習に取り組むべき時期であるから、大学の紹介では不十分である。そこで、個別にテーマを決めさせ、自分が大学で何を学びたいのか、将来は社会にどのように貢献したいのかをしっかりと意識させるために、プレゼンテーション実習を活用することにした。平成25年度は以前と同様に学年発表会を実施したが、2年生は文理に分かれているので、発表内容がより専門的になってしまうことや、大学名を伏せていても発表内容から大学名が推測できてしまうことなどの理由で、平成26年度は学年発表会を実施していない。今年度も実施しない予定である。

プレゼンテーション能力に関しては、相互評価で高評価を得た生徒が、実際に大学の推薦入試でプレゼンテーションを実施（パワーポイントは使用していない）して合格を果たすなど、成果が上がっている。

#### 5 まとめと課題

進路指導と連携することで、生徒が実習により真剣に取り組むことができるようになってきている。パワーポイント作成でそれまでに学んできた技能を定着させることができ、プレゼンテーションの技法を適切に活用できる生徒を育成できている。学年発表会の扱いなど、より教育的効果を高めるための連携方法を考えていきたい。